

薬師寺旧境内の調査

- 第338次

1 はじめに

本調査は、駐車場建設とともになう事前調査である。調査地は薬師寺寺域西辺部で、西側は西二坊大路に面し、さらに西に六条間南小路が延びる。寺域西辺部では、従来、薬師寺西面大垣や西二坊大路東側溝を確認している（第118-27次；1978年度、123-18次；1980年度、131-3次；1981年度、223-17次；1991年度）。調査面積は約30m²。調査期間は2001年10月2日から10月11日である。

表土、造成用の盛り土、耕作土と見られる暗灰色土、茶灰色土を除去すると、暗茶灰色のややしまりの良い砂質土層があり、標高60.80m付近で、青灰白色粘土の整地土を検出、さらに10cmほど下層で青灰色粘土の地山面にいたる。

2 検出遺構

整地土上面で、2条の素掘り溝を検出した。

SD2785 調査区西半で検出した南北溝で、Y-19,619.9付近で東岸を確認した。溝は東岸からなだらかに西へ下がるが、Y-19,622付近、標高60.10m付近から溝底までさらに約1m急激に落ち込む。最大幅4.8m以上で、長さ1.4m分を検出、深さ1.6mが残存する。

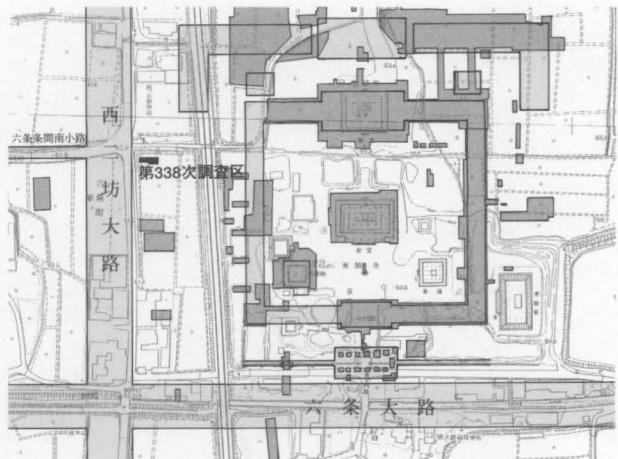


図148 第338次調査区位置図

SD2790 調査区南半で検出した東西溝で、北岸を確認した。北岸は、X-148,023.2付近に位置する。幅は0.7m以上で、長さ62m分を検出した。深さは0.7m程度残り、溝底が西に向かって下がるため、東から西に流れたものと考えられる。SD2785とはほぼ直交するが、その埋土の一部を掘り込み、SD2785埋没後も機能していたことが分かる。しかし、その合流点でSD2790の幅が急に狭まるところから、基本的に両者は並存し、SD2790は寺域内の排水をSD2785に流すための溝と判断するのが妥当であろう。埋土中から、瓦磚類、土器類、木製品および木簡が出土した。

3 出土遺物

瓦磚類 出土した瓦磚類は表21のとおり。SD2785では、軒瓦は出土しなかったが、凹面に模骨痕を明瞭に残す平瓦が十数点出土した。SD2790からは、奈良時代から室町時代にかけての軒瓦等が出土した。 (清野孝之)

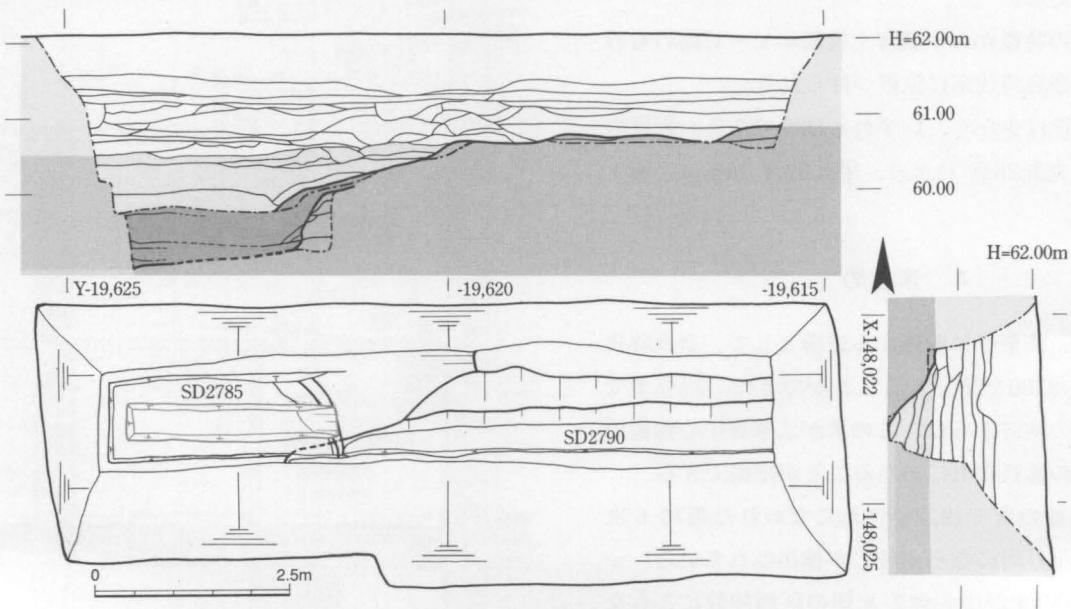


図149 第338次調査遺構平面図・土層断面図 1:100

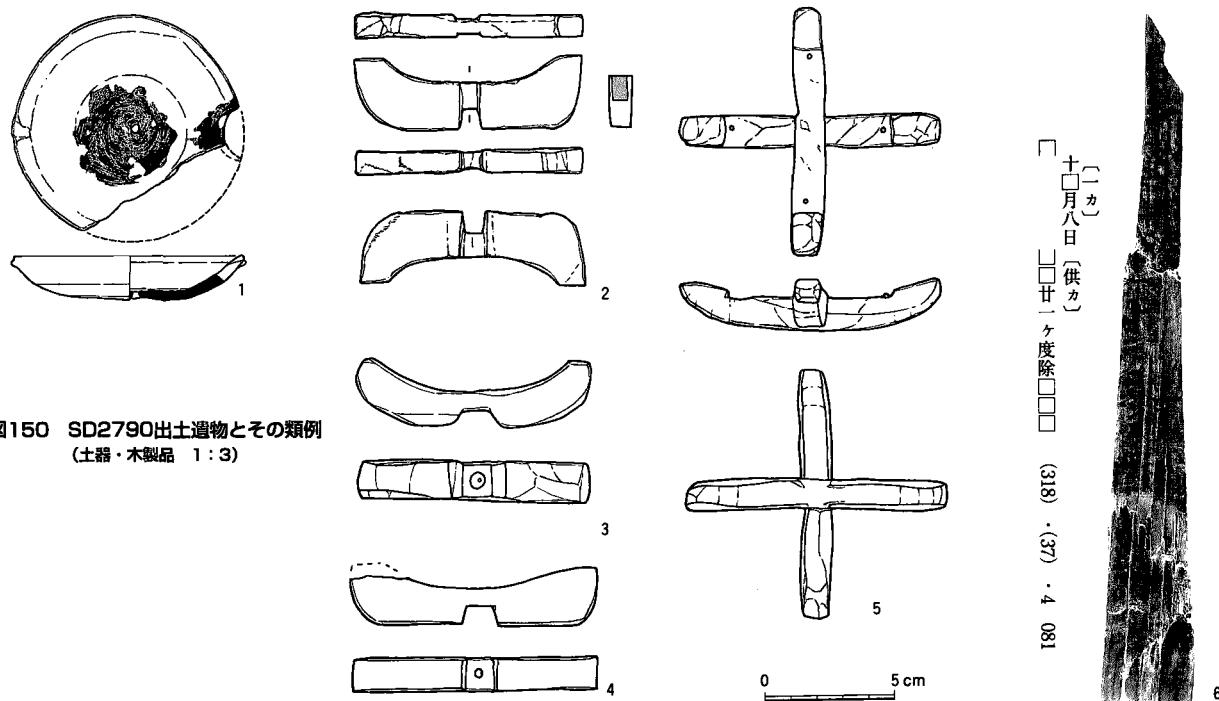


図150 SD2790出土遺物とその類例
(土器・木製品 1:3)

土 器 SD2790から、やや摩滅した室町時代頃の瓦質の擂鉢、江戸時代の土師器皿が出土した。灯明皿として使用された痕跡をもつものが2点ある。1点は軽く押さえたような片口がつき、口縁部の対向位置に半円形の抉りと底部中央に直径約3mmの穿孔をもつ(図150-1)。煤は底部内面と抉りの周辺につくが、底部外面中央にも円形に付着していることが特徴的である。
(神野 恵)

木製品 SD2790から、漆器椀、燈明皿受台、板材などの木製品や木炭片が出土した。図150-2は、厚さ9mmの板材を、長さ8.8cm、高さ2.8cmの弓形に成形したもの。中央には両側面に板の厚さに見合った幅9mmの浅い溝をもうけ、深さ8mmの切り欠きをいれる。樹種はヒノキ。

同様に切り欠きをもち、これを相欠きとして十文字に組み合わせた例があり、燈明皿をのせる台(燈明皿受台)と考えられている。参考に、神奈川県鎌倉市千葉地遺跡(3・4)、同千葉地東遺跡(5)出土の13世紀中頃から14世紀中頃の例を示しておく(千葉地遺跡発掘調査団『千葉地遺跡』1982。神奈川県立埋蔵文化財センター『千葉地東遺跡』1986)。

(次山 淳)

木 簡 SD2790の堆積土最下部から木簡6点が出土した。図150-6に掲げた木簡は、右辺上端の一部および左辺を欠損する。上端を尖らせる形状で、切り込みをもっていた可能性がある。墨痕をとどめない箇所も文字の部分が白く盛りあがり、一定期間、日光にさらされていた模様である。裏面には文字がない。祈祷札の類と考えられ、中世以降のものであろう。残り5点は墨痕が薄く覗読できなかった。うち1点は裏面に、20mm前後の間隔で長軸に対し直交する8本の線刻があり、定規の可能性がある。

(市 大樹)

表21 第338次調査出土瓦磚類集計表

軒丸瓦			軒平瓦		
型式	種	点数	型式	種	点数
6276(葉205)	E	1	6641(葉201)	G	2
6304	?	1	6663(葉214)	?	1
7038		1	奈良型式不明		1
中世		3	8312		1
中世巴		1	剣頭文		1
			隅切軒平		1
			中世		5
軒丸瓦計			軒平瓦計		
丸瓦			平瓦		
重量	135.9kg	235.9kg	0.2kg	面戸瓦1	文字平1 ヘラ書平1
点数	853	2330	1	スタンプ平4	隅切平2 用途不明1

4 まとめ—SD2785・2790の位置づけ

SD2785は西二坊大路東側溝のほぼ延長上にあたるが、過去の調査から想定される東側溝の東岸は、1m近く西に位置する。しかし、本調査区がSD2790との合流点にあたることを考慮すれば、水流によってえぐりとられたか、あるいは流れを円滑にするために人為的に拡幅したものと解して、SD2785を西二坊大路東側溝、あるいはこれを踏襲したものとみるのが妥当であろう。なお、従来の東岸想定位置は、SD2785が急激に落ち込む部分に近く、ここから西が、本来の東側溝の姿に近いのかもしれない。

一方、SD2790は、六条条間南小路南側溝想定位置のほぼ延長上に位置する。薬師寺寺域内に、六条条間南小路から続き、中心伽藍へいたる東西道路が存在した可能性は十分にあり、この寺域内道路の南側溝と推定できよう。ただし、溝が機能したのは、出土遺物により、中世末から近世を含む時期と考えられる。
(清野孝之)